●◆しゃばのしがらみを超えて、仏の願いに生きよう◆●

仏の願い

平成２１年 西雲寺だより　秋号（１３号）

報恩講のご案内

10月17日(土)～19日(月)

17日・・・・・・・・　お逮夜(2:00～)　お初夜(7:00～)

18日 お日中(10:00～)　お逮夜(1:45～)　お初夜(7:00～)
└御伝抄拝読　└御伝抄拝読

19日 お日中(9:30～)

法話 福井 奥田順誓師 (18日～)

18日はバスが出ますのでご利用下さい。

放送会館前発(8:50)～東別院前～工大温泉前～西安居経由
坪谷発(9:00)
常森発(9:00)～鮎川～小丹生経由

おさそい合わせの上
多数ご参詣下さい

親鸞聖人のご生涯

配所（越後）の親鸞

沈思の時代

承元（じょうげん）の法難によって、越後へ流された聖人は、赦免されるまで五年間、厳しい自然環境のなか、罪人としての生活をよぎなくされたのです。徐々に環境にもなれ、土地の人々との交流もあったことと思われますが、積極的に布教をされるということはなかったようです。許されてもいなかったのでしょう。

ではこの五年間聖人は何をされておったのでしょうか。それはよき師、法然上人との出遇いと、賜った本願念仏の教えを反芻（はんすう）するとともに、聖道門仏教と朝廷による念仏弾圧、流罪の意味するところを沈思し、自分の今後の歩むべき道を考えておられたのではないでしょうか。

聖人は晩年、渾身の力を込めて書き上げた『教行信証』の最後に、念仏弾圧について次のように述べておられます。

竊（ひそ）かに以（おもん）みれば、聖道の諸教は行証久しく廃れ、浄土の真宗は証道いま盛なり。然るに諸寺の釈門、教に昏（くら）くして真仮の門戸を知らず、洛都の儒林、行に迷うて邪正の道路を弁（わきま）うることなし

今回の念仏弾圧は、法然上人の吉水教団のお弟子の一部が、間違った行動に出たために引き起こされたのでなく、弾圧した奈良の興福寺や比叡山延暦寺の聖道自力の教えが、時機（時代と人間の根機）に合わなくなったことに無自覚で、念仏の教えが庶民の間に広がっていくのを恐れて弾圧したのだといわれるのです。そして都の学者や教養人である儒学者たちも、世の中の何が正しくて何が間違っているかを判断できず、権力にこびへつらって世の中を乱しているだけだと判断しておられるのです。

仏教は「正像末（しょうぞうまつ）」という歴史観に立っています。お釈迦さまがなくなって五百年は正法の時代といいます。教えと修行する僧と悟りがそろっている時代です。その後の一千年を像法の時代といいます。教えと修行する者はおっても悟りをする者は一人もいない時代です。その後の一万年は末法の時代といいます。教えはあっても修行する者も悟る者もいなくなる時代です。それを過ぎると法滅の時代といって、教えも無くなってしまうのです。これは、お釈迦さまのお悟りの世界を求めて真面目に修行してきた者の自覚の上にたつ歴史観であります。龍樹、天親、曇鸞、道綽、善導、源信、源空（法然）という、印度、中国、日本にわたる七高僧の方々は皆、正、像、末の歴史観に立ち、末法の時機が到来したという危機感のもとに求道修行し、本願念仏のみ教えをわが身にいただかれていかれたのです。親鸞聖人も二十年間比叡山で自力聖道の修行をされ、自分の根機にかなわないことを知らされたのです。

自力聖道の菩提心

こころもことばもおよばれず
常没流転（じょうもつるてん）の凡愚は
いかでか発起せしむべき（正像末和讃）

仏法で一番基本となる大切なものは菩提心です。生死の迷いを出離しようとするこころです。しかし我々凡夫にはそのようなこころは起こらないし、たとえ発起しても退転してしまって仏道を成就することなど不可能だといわれるのです。法然上人も菩提心を明確に廃除されたのです。しかしこの菩提心の問題は、法然上人の念仏の教団に大きな課題を残すこととなったのです。法然上人は八十歳で流罪を許され上洛されましたが間もなくご往生されました。すると日を経ないでお弟子たちが法然上人の著された『選択集（せんじゃくしゅう）』を刊行したのです。法然上人は『選択集』を著した後、聖道門の人たちにとっては尖鋭的で危険な信念が表明されているので公開することを禁止していたのですが恐れていたとおり、直ちに厳しい論難を生んだのです。早速華厳宗の学僧として名高い明恵上人が筆をとって『摧邪輪（ざいじゃりん）』三巻を書いて、題が示すように『選択集』の主張を「邪」、つまり非仏教の主張として徹底的に批判し弾劾したのです。その第一が「菩提心を撥去（ほっこ）する過失」であり、堂々たる菩提心論を展開されたのです。それとともに聖道門の人たちが決して許すことのできないことは「諸行を廃して念仏一行を選び取る」という法然上人の信念です。『選択集』の刊行によって専修念仏の教えに対する弾劾の火の手は更に厳しさを増し、比叡山は朝廷に

専修念仏の停止をあらためて要求し、ついに比叡山の僧兵によって『選択集』の版木は焼却され、更に法然上人の墓をあばいて遺体を賀茂川へ流すという暴挙に出たのです。まさに実行されようという前夜に門弟たちによって上人の棺が掘りおこされ、嵯峨をへて粟生（あお）まで運ばれ、そこで荼毘（だび）に付され難なきをえたのでした。これが「嘉禄（かろく）の法難」とよばれるものです。聖人は吉水時代、六人のお弟子の一人として『選択集』の書写を許されたものとして、何故このように法然上人の「ただ念仏」の教えが誤解され、弾劾されなければならないのか、深い責任感とともにその誤解を解くべく沈思されたのです。このことがやがて関東時代から晩年にかけて『教行信証』を著わし、『選択集』の問題点に応えて間違いのないことを明らかにしていかれることになるのです。

海との出会い

親鸞聖人が流罪の地、越後で初めて目にしたのは牙をむくように荒れ狂う日本海でした。またその海に出て漁をして生活をする人びとの生きざまだったのです。

聖人の書き物を見ますと「海」という字が百回以上出てきます。二つに分けることが出来ますが、一つは人間の底知れぬ煩悩、そして苦しみを表したものです。「生死の苦海」「愛欲の広海」「一切群生海」「難度海」「無明海」などです。もう一つは如来の智慧や本願を表したもので、「本願海」「難思の法海」「功徳大宝海」「一如宝海」「本願一乗海」などです。

海には八つの不思議が説かれています。その一つはどのような川の水も海に流れ込めば塩味という一味になるというのです。きれいな川の水も汚れた川の水も海にそそぎ込めば塩味に一味になるように、私たちの煩悩も名号の徳に転ぜられて同一の智慧の「塩味」にされてしまうのです。

また屍骸を宿さずというのがあります。

名号不思議の海水は
逆謗の屍骸もとどまらず
衆悪の万川帰しぬれば
功徳のうしおに一味なり（高僧和讃）

弥陀の名号を信ずれば、五逆や謗法の最も重い罪人も、浄土の岸に打ち上げてさとりの世界に転じ変えるというのです。

聖人は越後の厳しい海をじっと見つめながら、人間の煩悩の深さ、迷いの深さとともに、「如来智慧海、深廣無涯底（にょらいのちえのうみは、ふかくひろくそこがない）」という本願の世界をいただかれていかれたのです。

われらの世界

聖人が五年間の配所の生活で最も心を痛められたのは、そこに生きる田舎の人々の苛酷さでした。それは決して京の都では目にすることはなかったものでしょう。ただ食べるために生きる人々、また、朝元気に手を振って出かけていった漁師が、夕方には死骸となって帰ってくるという悲惨な光景も目にしたことでしょう。『歎異抄』第十三章には、

うみ、かわに、あみをひき、つりをして、世をわたるものも、野やまに、ししをかり、とりをとりて、いのちをつぐともがらも、あきないをもし、田畠をつくりてすぐるひとも、ただ同じことなり

とあります。「いのちをつぐ」とは一日一日いのちをついで生きてゆくことです。冬荒れた海には漁などできません。ししを狩ってもいつも捕れるとは限りません。まさに命を一日一日つないでいるともがらです。また『唯信抄文意』には

りょうし、あき人、さまざまのものは、みな、いし、かわら、つぶてのごとくなるわれらなり

という親鸞聖人のおことばがあります。「いし、かわら、つぶて」というのは、全くその存在が認められないということです。当時の百姓や漁師、商人という庶民は、国家から何の庇護も受けず社会から見捨てられた存在でしかなかったのです。聖人はそれらの人々の中に人間としての本当の姿を見出し、「われら」と名告られたのです。このわれらの世界は『大無量寿経』において、如来の大悲が十方衆生を迷いの衆生と見出し、念仏申さしめて救わんと誓われた本願に目覚めた世界であります。聖人はいよいよ本願を聞思して「われら」という「いのちの大地」へと帰ってゆかれたのです。（住職）

前住職の法要に参詣して

本堂町　八木哲雄

五月十六日、前住職の十七回忌法要に参詣させていただきました。厳粛なうちに法要が始まりました。私はお経を聞きながら、生前の住職様を走馬燈のように思い出していました。私共の町内では、毎年十一月初めごろに、同行の報恩講を営むことになっております。昭和の時代には、前住職と三本木の下寺住職も一緒に、町内八軒の家で宿泊されました。　自家用車もなく、町内三十軒の同行を巡回されておりました。（宿泊の順番はくじで決める）

八軒の宿泊家で、午後二時、夜七時、翌朝七時半と、二人で三回お説教をされて次の宿に出向かれました。夜のお説教は九時頃に終了され、その後夜食と言う習慣でした。夜食の時に、世間話をしながら住職は、僧侶はらくな仕事ではないね、毎日説教の勉強をしなければならないし、同じことを言うわけにもいかないし、世間話を取り入れながら説いていかなければならないし、聞く人に飽きがこないように、大変な仕事ですよ、それと、どの家も食事は大変美味しいと感謝していました。だけど、他の人には他言しないで下さいと言われました。実は、夜、入浴をどうぞと、先濯をしましょうかというおもてなしがなかったと聞き、私共どきっとしました。お人様に入って頂くような風呂場ではありませんので、お勧めできなかったことを大変悔やんでおります。今でも大変申訳なく存じます。そう言うことを思い出しながら…

法話も終り、法要後のおときの時に突然、奥方様から「西雲寺だより」に投稿してもらえませんでしょうかと言われ、なぜ私がと言いますと、奥方様は、私が油絵を二枚寄贈しましたので、その事で投稿をお願いしますとのこと、私は毎日思案にくれていました。その後、若様がわざわざ自宅までお出でになられ、お断りすることもできず筆を取ることとなりました。

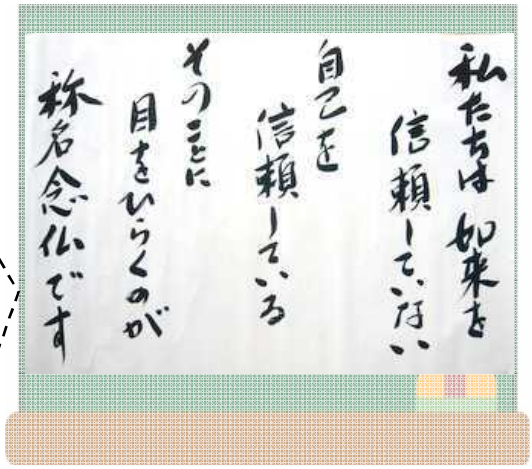
私は事務職をして三十年勤務、六十二才で退職と言う時に、子供が、私の知らない間に、福井県立美術館へ油絵の基礎講座に申し込みをし、いや、びっくりしました。なぜと思いながら　開講日に出席しました。絵は子供の時から好きで時間の余裕があったら、どこでも観覧に行っていました。基礎講座終了後、絵画グループを作り、講師の坂井先生のもとで絵画の勉強をしている内、住職様に、西雲寺の垂れ桜を描いてもらえないでしょうかと言われ、取材に何日も伺い、写真を取り描写し、寄贈しました、玄関に掲載させて頂いています。

また、今年春、子供の友人が、エベレスト近くまで登山し、そのエベレストを投影した写真を見て、大変感動し、子供に油絵にしたいと頼み、半年かけて油絵に仕立てました。その油絵を、御堂横、みすの間に掲載させて頂きました、ご鑑賞下されば幸いに存じます。

尚、応接間に飾りたいと言うご依頼がありまして、現在製作中であります。ご住職様のお気に入って頂けますでしょうか…

玄関に掲げてあります

山門掲示板



私たちは日頃聞法して、お念仏のおいわれを聞かせていただいても、何か心が晴れない、虚しさが解消しないという問題点をかかえています。それは何故でしょうか。それは、いくら聞いても、仏智を疑惑し、如来を信頼していないからです。どこまでも心のなかでは自己を信頼しているのです。救われるとは自我いっぱいに生きている私が破れて光明無量、寿命無量の大きな世界に出させていただくことです。その時お念仏が出、頭が下がるのです。

最近お念仏の声がほとんど聞かれなくなりました。念仏は称名であり、称名は聞名です。お念仏によって大きな世界に目覚めた先輩達の、「お念仏申せ」という声を聞いていくのです。またお念仏は「憶念」です。私にかけられているご本願のおこころを憶念していくのです。念仏申すことによって、少しずつ私のからが破れ、ご本願にうなずく身に育てられていくのです。（住職）

ある方がお説教でこんな歌を聞いたそうです。（「娘よ」のメロディーで）

①この世におかげで生まれて今日の日も　生かされてきた幾十年
早いもんだね六十もすぎて　ひざはいたむし肩までやめる
いろいろなやみはあるけれど　今日の一日楽しく生きよう

②しわやしらがができなきゃいいと　年をとったら誰でも思う
早いもんだね七十もすぎて　腰はまがるし頭はぼける
だけど気持ちは若くもち　年を忘れて明るく生きよう

③ぼけや中気になりたくないと　お爺もお婆も願いは同じ
早いもんだね八十もすぎて　人生苦労の山坂こえて
年に不足はないけれど　今日の一日元気でいたい

そこで編者が、ざれごとで4番を作ってみました。

④凡夫はなもかも縁次第　明るく楽しくもその時次第
業もわくまま痛てぇも痛てぇまま　安心の道はただひとつ
娘に残すもんさえみつかりゃ　我が身は消えてもだんね～よォ

予告　　予告

１年半後の 750 回忌まで、わしゃ、もたん！
この秋、本山・御正忌報恩講にお参りしませんか？

♪　参拝旅行のご案内　♪

日にち　１１月２７日（金）（早朝発日帰り予定）
行き先　佛光寺本山
大逮夜（門主代務恵照様ご出勤）

※申し訳ありませんが、この日に
　おかみそり式（帰敬式）はございません。
※武生の光善寺さんと一緒にお参りする予定です。
※もう一度、次号で詳しいご案内をいたしますが、申し込み
　ご希望の方は、どうぞ西雲寺までご連絡下さい。

投稿俳句

亡き母に近づき年の息子たち

生きているあらゆる人の思いありて

ゆらゆらと闇夜を照らす蛍舞

発　行
真宗仏光寺派 専念山 西雲寺（さいうんじ）
住職　護城一寿
筆頭総代　鈴木春夫
編集責任者　護城一哉
〒910-3523　福井市武周町５－２
電話　0776-97-2138
メール　kmgojo@mx3.fctv.ne.jp
ホームページ　http://arukou.net/

次世代の方、分家された方に！
　お手元に２部届いた時には、ぜひご活用下さい。

みなさんの声　大募集！
　原稿や作品はもちろん、ご意見、ご感想など、どしどしお寄せ下さい。郵送でもメールでも構いません。お待ちしております。